

# 日本の世界遺産

将来にわたって残したいすぐれた自然や文化を世界遺産として国連（UNESCO）が登録しています。価値のある地形・地質、生態系、景観、絶滅のおそれがある動植物の生息・生育地が登録される世界自然遺産は、日本では平成23年6月に登録された小笠原諸島をあわせて、4か所が登録されています。

**しらかみさんち 白神山地**  
1993年12月11日登録



マザーツリー  
小岳から白神岳方面  
白神山地には、原生的なブナ林が広がっています。ブナは、かつて日本の山や丘のあちこちにありましたが、今は少なくなっています。この地域は自然のままのブナ林がまとまって残っている大切な地域です。ツキノワグマやイヌワシなどの大型動物が生息しています。



**やくしま 屋久島**  
1993年12月11日登録



宮之浦岳  
屋久島は、九州でもっとも高い宮之浦岳を中心とする山々からなる島で、低いところから高山に育つ植物まで、高さによって変わってゆく植物のようすが見られます。原生的な森が残されており、縄文杉に代表される巨木をみることができます。



縄文杉



**しれとこ 知床**  
2005年7月17日登録

知床には、火山などによって作られた険しい山々、切りさかれたような海岸のがけ、いくつかの湖からなる湿原などがあり、海岸から標高およそ1,600mの山までの間には、ヒグマやシマフクロウなど自然のままの動植物がずっとつぎとあらわれます。



しれとこみさき 知床岬へ続く海岸線



ヒグマ



**おがさわらしょうと 小笠原諸島**  
今年(2011年6月24日)登録されました

2011年、小笠原諸島は世界遺産に登録されました。小笠原諸島は、東京からおよそ1,000km南にある亜熱帯の島々です。どの島も大陸と陸続きになったことがないため、独自に進化した特徴のある動植物によって作られた独特の生態系を見ることができます。



オガサワラオカモノアラガイ

\*写真はすべて環境省